

[認知症対応型共同生活介護用]

調査報告概要表

作成日 成 19年 8月 21

【評価実施概要】

事業所番号	(※評価機関で記入) 4670103102
法人名	医療法人 春風会
事業所名	グループホーム 明和の家
所在地	鹿児島市明和5丁目1番15号 (電 話) 099-218-9121
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂本町27-5 前田ビル1F
訪問調査日	平成 19年 8月 21日

【情報提供票より】19年7月18日 事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15年 2月 19日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 8 人, 非常勤 8 人, 常勤換算	14 人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,500 円		その他の経費(月額)	水道光熱費他21,000+実費
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(月 日現在)

利用者人数		18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1		4	名	要介護2	8	名
要介護3		4	名	要介護4	1	名
要介護5		1	名	要支援2		名
年齢	平均	85 歳	最低	76 歳	最高	199 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	田上記念病院	西歯科医院
---------	--------	-------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

国道三号線から少し入った高台にある閑静な住宅街の中に建っている二階建て2ユニットのグループホームである。庭やベランダからは桜島や城山が眺望でき 甲突川沿いの風景を眺めながら、職員と利用者はお茶の時間を楽しむこともある。管理者と職員は利用者一人ひとりと向き合い、できる事ややりたいことを見い出し、利用者の希望に副った支援を行っている。ゆっくりゆったりを心がけ、利用者の尊厳やプライドを尊重し、「わが身に置き換えたケア」を目指し取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価において、要改善点は特になく、現状を維持し更なる充実が期待されている。管理者と職員は評価を通してケアの見直しを行い、自ら改善課題を提起し改善計画を立て、更なるサービスの質の向上を目指し取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者だけでなく職員全員が、自らのケアを振り返り見直す機会ととらえ、自己評価に積極的に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	第三者委員・老人クラブ会長・地域包括支援センター職員が出席し、事業所から活動報告をするとともに、地域との交流について意見や要望を出してもらったり、外部評価への取り組みの説明等を行い、サービスの向上にいかしていく話し合いの場としている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	意見箱を設置するとともに、相談や苦情受付担当者・その件の解決責任者・第三者委員を設置し、家族等が意見や苦情を自由に表出できるよう取り組んでいる。出てきた意見や相談については職員全員に周知し、適切に対応を行っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、地域の奉仕作業や老人会の活動に参加したり、あいご会の廃品回収への協力など地域住民との交流に努めている。地域の方が書道や絵を教えに来てくれたり、高校生がボランティアとして訪れている。

調 査 報 告 書

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人内のグループホームの管理者全員で話し合い作成した理念を、グループホームの職員全員で再度話し合い、地域密着型サービスとして果たすべき役割を反映した内容の理念であり、グループホームの目指すサービスのあり方を明確に示している理念であることを確認し、事業所の理念としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の申し送り時に職員全員で理念を唱和し、意識づけを行うとともに、ミーティングの時にも理念について話し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域の奉仕作業や老人会の活動に参加したり、あいご会の廃品回収に協力するなど地域住民との交流に努めている。地域のボランティアの方に絵や書道を習ったり、高校生のボランティアも訪れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を職員に説明し、自己評価は自らのケアを振り返る機会ととらえ、職員全員で取り組んでいる。外部評価の結果はミーティングで報告し、評価を通してケアの見直しを行い改善課題を自ら提起し、更なるサービスの向上を目指し改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	第三者委員・老人クラブ会長・地域包括支援センター職員が出席し、事業所の現状や活動を報告するとともに意見や要望を出してもらい、申し送りやミーティングで話し合い、サービスの向上にいかしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者に事業所の活動内容を報告するとともに、介護保険課・保護課・高齢者福祉課の担当者と連携を図り、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族等の訪問時にホームでの暮らしぶりや近況を伝えたり、金銭出納帳の確認をしてもらっている。また、月一回ホーム便りで行事予定やホーム全体の様子を知らせている。急な受診等はその都度電話で報告している。	○	家族等への報告を充実するために、ホーム便りの内容についてや家族の知りたい情報について検討し、取り組んでもらいたい。また、馴染みの職員との信頼関係は大切なことなので、職員の異動は家族にとっても重要なことと受けとめ、報告することが望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置するとともに、相談や苦情受付担当者・その件の解決責任者・第三者委員を設置し、家族等が意見や苦情を自由に表出できるよう取り組んでいる。出てきた意見・相談等は全職員が周知するとともに、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は馴染みの関係を保つ重要性を考え、基本的には法人内異動は行っておらず、職員の離職も少ない。やむなく職員の異動や離職がある場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験や習熟度の段階に応じて、法人内研修や外部研修への参加を促しており、伝達講習やホーム内の勉強会も行っている。働きながら資格を取得した職員もあり、職員の質の向上に向けた育成に取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	鹿児島県・鹿児島市のグループホーム協議会に加入し、勉強会や研修会に管理者及び職員が参加し、交流を行っている。他グループホームの研修を受け入れており、今後は相互訪問を計画している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人に見学してもらい、職員や他利用者、サービスの場に馴染んでもらえるよう支援している。状態によっては、利用開始後も家族に毎日通ってもらう等の取り組みをしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「いつもゆっくり寄り添いながら、共に歩くパートナーを目指します。」という理念を常に意識して、共に支えあう関係作りに努めている。普段から季節の料理など利用者から教わる機会も多い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中で、利用者の希望や意向を引き出すように努めており、把握が困難な場合も家族等から情報を得て、本人の視点に立って検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意見をもとに職員間で意見交換を行い、利用者本位の介護計画を作成している。作成した介護計画は個人記録に添付し、職員は計画に基づいたケアができるよう工夫している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	設定した期間での見直しを行うとともに、状態が変化した時は 随時、検討や見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かして、24時間健康管理や医療活用の強化を図っている。また、歯科衛生士を職員として配置して口腔ケアを徹底している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向を確認しながら、事業所の協力医や以前からのかかりつけ医と連携をはかり、通院や往診など必要な時に適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、重度化した場合や終末期のあり方について意向を確認し、その後、状況変化があるごとに主治医・家族・職員・関係者で話し合い、方針を確認している。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	「わが身に置き換えたケア」を常に意識して、利用者の誇りやプライバシーを尊重した言葉かけや対応をするように努めている。個人記録の管理にも注意を払っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースや希望を尊重したうえで、その日その時の気分や体調に合わせた柔軟な支援を行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と相談しながら献立を決めたり、食事の準備や下膳・後片付け等出来る事を一緒に行い、同じテーブルを囲んで会話を楽しみながら食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は一応決めているが、利用者の希望に応じて対応している。入浴の際の羞恥心や負担感・抵抗感のある利用者への声かけや対応にも配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常生活のなかで、食事の準備や後片付け・買い物・回覧板を届ける等、できる事・やりたい事を楽しみながら役割を持って生活できるよう支援している。絵画や書道を習っている利用者もあり、趣味や楽しみごとの支援も行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や利用者の体調を考慮し、買い物・散歩・ドライブ等にでかけたり、庭でお茶の時間を過ごす等の機会を作っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の外出傾向を把握し、外出したい様子を察知したら、付き添って一緒に散歩するなどの対応や、近隣住民の理解や協力を得て、日中は鍵をかけない自由な暮らしの支援を行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年二回、消防署の協力を得て昼夜を想定した消防訓練を行っている。近隣住民への協力依頼も行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに配慮し、利用者の希望や馴染みの献立を取り入れるよう心がけており、一日の食事量や水分摂取量をだまかに把握している。法人内病院の管理栄養士から、専門的な観点でのチェックやアドバイスをもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関ホールからリビングが丸見えにならないよう入り口に障子を取り付けて、リビングでゆっくりと居心地良く過ごせるよう工夫している。よしずで日差しを調整しながら自然光をとり入れ、室内は季節の花や家庭的な装飾品を飾り、落ちついて過ごせる空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や日用品・テレビや冷蔵庫などが持ち込まれ、それぞれの利用者の好みや希望を取り入れ、居心地良く過ごせる居室作りを行っている。		